

日経産業新聞

2017年(平成29年)
2月1日
水曜日

NIKKEI BUSINESS DAILY

開発者倍増へ2.5億円調達

ゼンムテック シリコンバレー進出

ソフト開発のゼンムテック(東京・品川、田口善一社長)は総額2億5000万円の資金調達を実施した。技術者を採用して開発人員を2倍にするほか、海外展開に向けて米シリコンバレーに拠点を新設することに資金を投じる計画だ。

ソフト開発のゼンムテック(東京・品川、田口善一社長)は総額2億5000万円の資金調達を実施した。技術者を採用して開発人員を2倍にするほか、海外展開に向けて米シリコンバレーに拠点を新設することに資金を投じる計画だ。

当先とする第三者割当増資で調達した。ゼンムテックは2月1日付でTC SIから社名を変更することを1月27日に発表していた。中核製品はデータをパソコンとUSBメモリーなどに分散保存しておき、パソコンを紛失した場合でも

第三者がデータを復元できないようにするソフト「ゼンム」(1月までの製品名は「バセリ」)。2016年4月には東京大学エッジキャピタルやテクノスジャパンから合計3億円強の出資を受け入れていた。

今回調達した資金で開発スピードを高めるとともに、海外展開を進める。まずソフトウェアの開発者を新たに5〜10人採用し、開発人員を2倍にする。社外の人員も活用し

ながらゼンムのスマートフォン(スマホ)版や、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」版の開発を進める。17年中にも米シリコンバレーに初の海外拠点を置き、米国のパソコンメーカーやIT(情報技術)企業への販売や提携を進める。社員3人程度を日本から派遣する予定。ゼンムは専用フォルダをパソコンと別の機器に分散保存するソフト。保存先の複数の機器がそ

ろわなければフォルダーの中身が見られない。ゼンムテックはゼンムのライセンス販売が16年までに国内で累計5万台を超え、今後は毎年2倍のペースで販売を増やせると見込んでいる。